

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023 年 3 月 1 日

10名

事業所名 縁

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	9	1	個別な面談や行事に応じて、施設内の多目的室等も利用し、事故が起きないように配慮している。	フロアの配置等、事故が起きないように工夫し、マットの活用や家具の固定などしている。
	2 職員の配置数は適切である	7	3	曜日により兼務配置の職員がいるが、配置数を満たしている。	兼務職員が多いが、連携が確保していけるよう会議を行う。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	2	入室時の介助時は周囲を含めて、注意している。	車椅子のサイズに対して、部屋の入口が小さいと思う。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	定期開催の日程を、参加しやすい日にしている。	事業会議に参加できる職員を増やし、業務改善の機会を増やしていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		集計後、職員の会議にて内容を確認している。新たな取り組みの提案等を考えている。	児童、保護者の意向内容を事業内で話し合い、業務改善につなげる。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	毎年、HPと書面にて配布している。	毎年多くのご家庭に協力してもらい、又職員の振り返りに活用している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	5	法人内による外部評価を受けている。	外部評価を事業会議の場で話し合い、全体で改善方法を検討する。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	2	研修企画している職員の呼びかけにて、参画している。	多人数の研修が感染予防の為出来なかったため、動画研修の機会を増やしていきたい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10		アセスメントやサービス計画は児発管が行い、それを基に個々の課題、支援を活動内で取り組んでいる。	日々の児童の成長や状況に応じて、個々の課題、指導を柔軟に行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	4	事業書式のアセスメントを作成し、保護者と一緒に作成している。	アセスメントを多くの職員がとれるように、知識を習得する機会を作る。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	活動プログラムの立案を作成し、それをチームで調整、企画している。	活動ごとの担当者がチームをまとめ、入れ替わりながら、様々な職員が提案できるような体制を作る。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	2	児童の評価や保護者からの要望がある内容は、再度取り入れるように組んでいる。	活動を固定化しないように工夫しているが、次第に同じパターンになっていると思う。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	2	定期的な課題と、行事として体験できる機会を、計画して行っている。	児童と保護者の意向を取り入れた課題を提供できるよう検討していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	職員の話し合いや見立てを取り入れ、計画している。	児童と直接関わる職員からの意見を取り入れ、モニタリングしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	2	支援開始前に出勤者同士でミーティングをし、活動内容等の打ち合わせを必ずしている。	活動スケジュールや当日の児童の状況を考えた役割分担を行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	一日の振り返りをして、何か課題などがあれば話し合いをしている。	話し合いが出来なかったときなど、申し送りの活用をしている。
関係機関や保護者との連携	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		大事な記録や申し送りなどは、日誌の裏に書くように徹底している。	記録や申し送りの徹底を毎日行っている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	2	児発管が作成した計画を共有し、会議の場面で状況に応じた見直しを行なっている。	児童本人の意見、職員の意見を聞き取り、関係者等と合わせ判断していく。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	10		個別支援計画の内容に取り入れている。	障がい特性に合わせ、職員も指導方法を学び、応用力のある活動にする。
	20 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	児発管が担当者会議に参画しているが、時々職員も参画する。	担当者会議に参加できない職員の意見も会議の場で伝えながら、児発管を中心として参加していく。
関係機関や保護者との連携	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	2	学校行事等については、放デイから尋ねると保護者から聞いてほしいと言われ、教えてもらえない事が多い。送迎時を活用して個々の様子を尋ねている。送迎時にミスがある。迎えに行っても乗らない等。	学校HPの活用や保護者への協力依頼などにより、確認している。トラブルにおいては、保護者と児童と話し合いにて解決方法を検討している。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	2	服薬の状況や、服薬内容等を医療情報提供書とともに取っている。	積極的に医療機関との連携が取れるよう、関係者と連携する。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	4	利用契約時に、相談員や関係機関からの情報を取っている。	児発管が、事業会議の場で職員に説明をする機会を増やす。

関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	1	会議や保護者、相談員など又は移行先事業所へ必要な情報を伝達している。	卒業生のその後を、今後の児童たちの参考になるよう情報を発信したい。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	外出しての参加は今年度は感染予防の為控えている。、	施設内での、動画研修を取り入れている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	9	現在はコロナ感染による予防の為、控えている。他事業所の交流が年に数回ある。	感染予防対策を講じながら、様々な場面への体験学習の機会を増やす。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	5	主に、児発管が参加している。	新型コロナ感染予防の為、不参加があったが、今後は参加を増やしていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		連絡帳等を活用したり、送迎時の伝達にて児童の状況報告をやり取りしている。	保護者や関係機関との連携を継続した形で行う。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	3	支援者が気になった時や保護者から相談を受けた時などに、助言を行っている。	ペアレントトレーニングのスキルを職員が習得し、要望時などに提供できるように計画を立てる。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	契約時だけでなく、実績に関わることや支援方法を説明し、理解を得ている。	保護者へ分かりやすい説明ができるよう、職員が認識を深める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		担当者会議や保護者との話しにて、行なっている。	状況を整理し、関係機関の協力を仰いだり、解決する方法に取り組む。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	9	保護者達からの希望もなく、保護者会の組織がない。	定期的なアンケート内容に取り入れていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10		内容を整理し、管理者の監督のもと職員に周知し、保護者と話し合いをしている。	苦情の内容を正確に把握し、相互理解できるように早期の話し合いを行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		月間活動表や定期的な新聞の発行をしている。	新聞の発行以外でも、情報の提供方法を増やす。
	35	個人情報に十分注意している	10		個人情報同意書の内容を細かく定め、同意を取っている。	毎年肖像権の確認を行ったり、個人の情報の保管場所、方法を徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		児童への意思疎通方法を保護者等と確認している。保護者への説明方法は、家庭の状況などに応じて対応している。	保護者、関係機関との連携と、新たな取り組みの提案ができるよう、情報の共有を行う。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	9	コロナ感染予防による地域住民との交流の事業企画は出来ていないが、法人内の放デイ同士の交流する事業計画は取り組んでいる。コロナ感染予防の為、外部との交流は見送り。	社会的な新型コロナ感染状況や利用者ニーズを踏まえ検討したい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10		各研修時は、必ずマニュアル内容の見直しをかけている。	マニュアル内容を会報誌等に付け加えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	2	避難訓練(火災、地震、水害)を月一回行っている。	避難訓練の情報をより多く開示していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	2	研修もほぼない。もっとあっても良いと思う。	職員からの要望を取り入れた研修を増やす。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10		責任者や職員間にやむを得ず身体拘束を行う必要があると思われるとき、相談や協議し、児発管より保護者に説明してもらっている。	職員に研修の機会等にて非常時の対応について段階的な決定がなされる事を認識して、徹底させる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		食事提供時は同意書を取っている。	同意書等の内容を職員全体が把握できるように用意しておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	ヒヤリハットの書類にいつも目を通している。	全職員が内容を閲覧しやすいよう、保管場所や日誌への記録を行っている。